

## 平成 26 年介護等体験談

### 社会福祉施設 3

「福祉」と「教育」の共通点を見つけたいという意識を持って、今回の介護等体験に取り組んだ。最初は、なぜ教育者になるために福祉を体験し、知る必要があるのか疑問に思っていた。しかし、実際に体験してみると、学校現場で求められる資質と似た部分が介護職にも求められていることがわかった。特に必要とされるのはコミュニケーション能力である。そしてその能力が求められる相手は利用者さんに対してのみではなく、同じ職員の間に対してもである。

利用者の方は特別養護 2・3 において、認知症の重い方が多く、自発的な行動が望めない場合が多い。その日の体調等を把握するためには、職員からの問いかけやコミュニケーションを取る中での、様子の観察が欠かすことができない。これは教師と生徒間の関係性に置き換えることができる。

問題や悩みを抱えている生徒は、自分から他人に打ち明けたり、相談をすることができずにいる事が多い。そうした時、教師は生徒との普段からのコミュニケーションの中で生徒の様子の違いに気付き、支えとなっていかなければならない。

職員間でのコミュニケーションは、利用者の方の様子・体調などを共有することで、問題に対しての組織的対応が可能となり、利用者の方の安全確保やより良い生活へと結び付けることができる。

これは教師間関係にも共通することである。普段と様子が違う生徒や、問題を抱えている生徒についての情報を、複数教科の教員もしくは学校全体で共有し把握することで、問題（特にいじめ等の問題）の解決を組織的に行うことができ、生徒のより良い学校生活環境を確保することができるのではないだろうか。

この 5 日間を通して「コミュニケーションの重要性」という点での「福祉」と「教育」の共通点を見出すことができた。これからの生活や教師としての学校生活に活かしていきたいと思う。